

ジエームズ・ボンドは来ない

松岡 圭祐 著



直島の「〇〇七」ロケ誘致運動は、

実話である。長期取材をしたという作者は、丹念に事実をたどり、運動の全容を活写してのけた。

今月末公開の映画「万能鑑定士Q モナ・リザの瞳」の原作者である松岡圭祐が、映画を題材にした新作を上梓（じょうし）した。

といつても、取り上げているのは

自作の映画ではなく、「〇〇七」だ。2000年代に盛り上がった香川県・直島の「〇〇七」ロケ誘致運動の一部始終を、ひとりの少女の成長と絡めて描いた、ユニークな青春小説である。

瀬戸内海に浮かぶ直島。ベネッセの出資による美術館があるが、産業もパッとせず、人口は減り続けている。だが、その直島が登場する「〇〇七」の小説が刊行されたことで、それを原作にした映画を誘致しようという運動が盛り上がる。島が豊かなことを見せる、高校生の峰尾遙香も、これに加わった。手作りの運動は、しだいに大きくなり、遙香の青春も輝く。だがその先には、厳しい現実が待ち構えていた。

直島の「〇〇七」ロケ誘致運動は、めり込んでいく遙香の行動が、やかな読みどころになっている。一方で、社会の現実に直面し、最終的に大きな挫折も味わうことになる。

その喜びと悲しみを体験したからこそ、彼女は成長することができた。自分でも知らないまま、直島に、さやかな奇跡を与えることができるた。

だから、まつ直（す）ぐな島に生きる、まつ直ぐな少女の心が、まつ直ぐに読者の胸に響くのである。（角川書店・1512円）

まつおか・けいすけ 1968年 愛知県生まれ、作家。「催眠」で小説家デビュー。著書に「千里眼」シリーズなど。

島に少女が与えた奇跡

評・細谷 正充（文芸評論家）